



## 第18回市民環境活動報告会 開催結果

### 今回の報告会の特徴

2012年3月3日に開催された本報告会のテーマは「気づきから行動の輪(わ)」でした。市民が自主的に気づくことから始まり、市民おのおのが、その思いを行動・活動に移し、それぞれの市民が尊重し合いながら前進していくことによって、市民力の向上をめざすというイメージを堅持して実施しました。

福島原発事故の被災地から福島県カウンセラー協議会会長が参加されて、被災地当事者の Face To Face の重みと伝承の大切さが浸透した良い報告会となりました。

### 基調講演「森はいかに楽しいか」

「丹沢の再生活動」について丹沢大山自然再生委員会委員長木平先生から森の恵みと自然を守る大切さを示していただきました。



### 口頭発表

H23・3・11 東日本大震災は自然の猛威によって甚大な被害が生じましたが、広範な市民力は自分に何ができるかを自問して、すぐに行動・実践を継続的に実施できたこと、省エネルギー(節電)に多くの企業、市民が取り組んだことの発表がありました。

また、自然の森を守ろうとひたむきに取り組んでいる森林インストラクターの活動と神奈川工科大学

### 実行委員長 柳川 三郎



の教授による気づき、輪を広げて、集中力を高める大学生の今

についての学術的な発表、そして、長い年月、継続した県内の大気(NO<sub>2</sub>)測定分析の調査報告、さらに、政令都市、相模原市の豊かな自然観察の学び、等の活動報告がありました。

### テーブルセッション

興味と関心の高いテーマに対してテーブルを囲んで、じっくり討論し、詳しく学び、今後の活動の参考にすることを目指しました。テーマは、(1)東日本大震災、(2)大気(NO<sub>2</sub>)、(3)自然観察、(4)節電、の4つでした。

### 実行委員会

実行委員会の構成は、当会、NPO 法人かながわカウンセラー協議会、かながわ地球環境保全推進会議、そして、オブザーバー機関として県環境科学センター、県環境計画課環境計画グループで行いました。委員会では、本報告会が市民にとって欠くことのできない大事なステージとの共通認識のもとに、積極的かつ活発な意見が提案されて良い体制で進行をはかることができました。

### 次年度に向けて

来年、第19回の市民環境活動報告会には、さらに多くの皆様に参加されて、環境保全・改善に向けての情報を共有していきましょう。



第18回市民環境活動報告会での開会挨拶



議論白熱のテーブルセッション

## 平成 24 年度総会開催のご案内

事務局 桑原 清

平成 24 年度総会を次の通り、横浜駅西口「かながわ県民センター」6 階会議室で開催いたします。万障お繰合せの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。ご欠席される正会員の方は、委任状または議決権行使書をご提出ください。詳しくは「総会資料」をご覧ください。

総会終了後、懇親会を予定していますので、こちらにも是非ご参加ください。

~~~~ 記 ~~~~

日時 平成 24 年 5 月 27 日（日）15 時 30 分～17 時 00 分（開場 15 時）

場所 かながわ県民活動サポートセンター 6 階 604 会議室（横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2）

懇親会 時間 同日 17 時 30 分～19 時 00 分

場所 津多家（つたや）横浜鶴屋町店（TS プラザビル B1）



### かながわコミュニティカレッジ連携講座

#### 「自然災害と環境」をテーマに 環境ボランティア養成講座 開催

事務局 桑原 清

昨年度に続き、かながわコミュニティカレッジ連携講座「環境ボランティア養成講座」を開催します。今回で 6 回目の開催です。

今回は「自然災害と環境」がテーマです。東日本大震災は被災地の環境にも大きな影響を及ぼし、多くの人の関心を集めました。一方、環境保全は日常的・永続的な活動テーマであることを見直し、自然災害と環境について改めて考えます。港湾空港技術研究所や創エネハウスの施設見学など、魅力あるプログラムとなっています。講座の最後には、受講者が今後どのように環境ボランティア活動に関わっていくかを講師とともに考えます。

この講座は、新たに活動を始めたいと考えている方はもちろん、すでに活動を始めていて活動の幅を広げたいと考えている方や、主婦、学生の皆さんのご参加も歓迎しています。

より多くの方が環境問題に関心を持ち、ボランティア活動に積極的に取り組む人々が増えることを願っており、こうした人達が当会と一緒に活動を展開できることを期待します。詳しい講座の内容については、当会ホームページにも掲載されていますのでご覧ください。

| 日時                                 | 内容                                  | 講師                              |
|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| 5 月 15 日<br>(火)<br>13:30～<br>17:00 | 基調講演<br>「丹沢大山の保全」                   | 自然環境保全センター 羽太 博樹氏               |
|                                    | オリエンテーション                           | 当会 桑原 清                         |
| 5 月 22 日<br>(火)<br>13:30～<br>17:00 | 港湾空港技術研究所<br>見学                     | 現地職員                            |
|                                    | 流域の水環境と水災害<br>～津波と洪水のシミュレーション～      | 金目川水系流域ネットワーク副代表<br>西岡 哲氏       |
| 5 月 29 日<br>(火)<br>13:30～<br>17:00 | 太陽光発電の推進                            | 県環境農政局<br>太陽光発電推進課              |
|                                    | 太陽光発電の実例                            | 岡野技術士事務所<br>岡野 庄太郎氏             |
| 6 月 12 日<br>(火)<br>13:30～<br>16:50 | JX 日鉱日石エネルギー<br>「創エネハウス」見学          | 現地説明員                           |
|                                    | 自然エネルギーの利用実<br>施例 ～八丈島の小型風<br>力発電所～ | NPO 新エネ研究<br>会東日本副理事長<br>小林 幸三氏 |
| 6 月 19 日<br>(火)<br>13:30～<br>17:00 | 東日本大震災と私のボラ<br>ンティア体験               | 当会 松原 洋一                        |
|                                    | ワークショップ                             | 当会 講師                           |

・・・ 東日本大震災から 1 年余り ・・・

## 我が古里ふくしまを思う

福田 昭三（相模原市）

安全、安心の神話が無情にも大きく脆く崩れさったあの日・・・平成 23 年 3 月 11 日、すべての日本人に忘れる事の出来ない記憶と記録となったあの福島原発事故・・・

さまざまな、そして多大な問題を抱えながらも、40 数年前、当時の佐藤善一郎知事そして木村守江参議員（後に福島県知事となる）並びに中心人物となる福島県出身の木川田一隆東京電力(株)副社長(後に会長になる)らが原発誘致に手を上げ、決定したことでした。

福島第一原発一号機が、地場産業のないこの地域、大熊町に建設されたのです。その後 1970 年代に 6 基の原発が同地区に安全、安心の言葉の下に建設稼働し、福島から東京に送電され続けました。

福島県人が利用する電力ではなく、はるか 300km 先の東京の人達に 40 年も送り続けたのです。地元にもそれなりの経済効果（受け入れ自治体の交付金他）はあったでしょうが、しかし、現在この地域の人達に残ったものは、はたして何でしょうか・・・。原発誘致を推進した多くの関係者、それにその安全、安心を大声で発した方々は現在何にも言わないし、顔も出てこないように思います。

現地では、生き残ったイヌやネコ、そして飼育施設より逃げた馬や牛等の動物が、餌を求めて日夜さまよっている事でしょう。豊かな福島の自然界に居た虫や、カエル、ヘビ、蝶、魚、等はどうなっているのでしょうか。目にする事の出来ない現実、当然ながら、人間も生活が出来ずに避難中です。



あれから 5 ヶ月 いまだに浸水している福島県南相馬市

どこかの知事が毎年、オリンピック開催の誘致に多大の予算を計上し、あらゆる関係団体に呼び掛けているようですが、思い切って知事さんの地元の海岸に一基でも建設して、地元の人々に電力を供給する対応を取ってはどうか（ある新聞記事に掲載されていました）。

現地を訪問中にお会いした福島の人には本当に良い人ばかりでした。災害にあった全ての人に幸多かれと祈って、福島をあとにしたあの日のことが、忘れられません！



海上にいる船が田んぼの中に・・・

海岸にあった美しい松並木は根こそぎ持って行かれ、田んぼに船が上がり、室内にあった物は全部流れ出て、そして命までも持って行ってしまった・・・。安全、安心が不信、不安に変わり、福島がフクシマになったあの 3 月 11 日から、我が古里福島に、かつて感じた（1）雪解け後の幸せを持って来るアタタカイ春、（2）花と緑いっぱいあの暑い夏、（3）果実がいっぱいの収穫の秋、（4）雪につつまれた銀世界の冬、そういう自然の四季が必ず来る事を信じます。共にガンバローと、人と人の絆を信じて、福島県人、いや日本が、世界の人々が、きっと一日先秋の思いで待っていることを。

美しい村に放射能が降ったことを本にした飯館村の菅野村長は、我が村が放射能汚染される事など想像してなかったとおっしゃっています。飯館村は自主・自立を掲げ、合併のしない村づくりを進めてきました。村のモットーは「までいライフ」でした。

4 ページ下段につづく

Lecture

# 「川と海を行き来する生き物」

柳川 三郎（平塚市）

相模原市立環境情報センターにて「川と海を行き来する生き物」と題して講義をしました。受講生徒たちからのコメントを講義の参考にして、相模川でのさかなとの出会いから、ボウズハゼ、清流の魚アユ、ウナギなど面白くて不思議な相模川の生き物を分かりやすく話しました。さらに、川の自然と宇宙とのつながりについて、潮の干満は、月と太陽と地球の及ぼす引力が生き物にどのように影響するかとか、汽水域、陸と海の接点で、潮の干満によって砂州・干潟できて生き物に影響していること、

相模川の寒川取水堰では魚道を作って、魚が行ききしていること説明しました。

以下は、受講生徒からのコメント(抜粋)です。

Tくん「川でアユを釣った時、子持ちのアユを釣ったことがあります。そのアユを育てたことがある。そのアユは子どもを産んで死んだ。この生まれたアユは11ヶ月で死んだ。アユの命について学んだ。」

Kくん「水を大切にすること、生き物を大切にすることにつながっていくんだなーとおもいました。相模川にはそんなに多くのアユがいるんだなーと思いました。アユの一生は1年しか生きられないので可哀そうだなーと思いました。」

Hさん「わたしはすごく川とか魚が好きです。アユは人間と違って1年しか生きないのでかわいそうだなあーと思いました。」

アユの命を学ぶ

Hさん「たくさん家で飼える魚を釣ったりしているので、川ですむ魚が増えるといいなあーと思います。とくに1ヶ所でドジョウがたくさん見つかった。」

Kくん「生き物の気持ちを考えながら川をきれいにしていきたい。ごみがあったらかならず拾って帰る。」

Nさん「川で魚を取ったことがあります。けど川に戻しました。」



アユの卵



アユの発眼卵



成長したアユ

3ページからつづく

「までい」とは、この地方の方言で、丁寧に大切に心を込めてといった実に奥の深い言葉なのです。そして菅野村長は、子供達にどんな日本を残したいのか、今回の震災そして原発事故を機会に日本人が本気で考え、行動していく最後の機にしたいと述べています。福島の人々も全員、この気持ちで生きていると思います。

あの住み慣れた別名うつくしまと呼ばれた福島の自然の中の清い水や空気を、あたり前のように身体の内に取り入れたあのころのことは、もはや懐古とは言えなくなってしまいました。

ふるさとは遠きにありて思ふもの。我が古里福島は静かに怒りを燃やしているように感じます。東北の鬼がいつ目の前に出て来るかもしれません。現代の民話が自然を返せと・・・



## 大気環境部会紹介

# 信頼される測定と精度をめざして

大気環境部会長 猪股 満智子

### 環境をモニタリングする

環境問題は、とかく情緒的に論じられることが多くあります。行政機関の発表や専門家と称される人の一言で、すべてが判ると思っている人が多いのではないのでしょうか。一回だけ測った数値で全てが判断されたり、珍しい生物が見つければ良しとされる現状もあります。また自ら測ってみたりもしない上に、憶測や以前からの情報を鵜呑みにして発言する人もいます。様々な情報が飛び交うなか、冷静に情報を取捨選択する姿勢が求められているのです。

身近な場所に未知の世界がたくさん残されています。環境のため、市民が何をすればよいのでしょうか。それが環境モニタリングで見えてきます。

大気環境部会では、モニタリングの積み重ねで得られたものを持ち寄り、環境学習しています。効率的な運営のため平成15年度までの環境モニタリング部会から水環境部会を分離して、大気環境部会として活動しています。環境の分野では自然系と言われる、境目のない大気中の見えないものを多方面から見つめ、分析したり、限界部分は耳や目による学問で補ったりしています。



### 環境保全活動の実践には

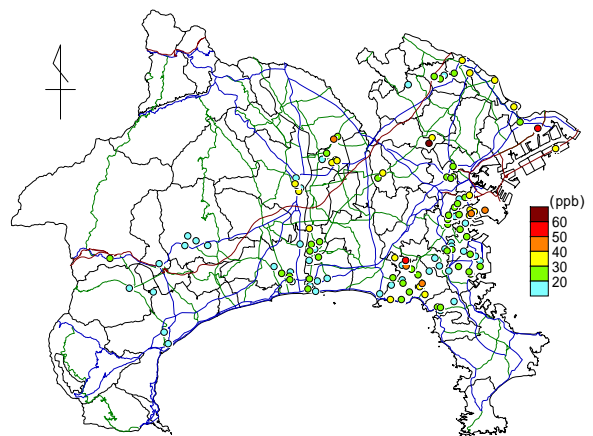
見えない大気をモニタリング（監視）することは容易でないと思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、部会員自らの発案による県環境科学センターでの専門講座学習や研究員の方々にご指導いただきながら歩めたことが何よりの力になっています。具体的にはNO<sub>2</sub>（二酸化窒素）の定期測定と測定機器類の精度比較を皮切りに、VOC（揮発性有

機化合物）PRTR（化学物質移動登録）情報を活用した解析や、SPM（浮遊粒子状物質）・PM（微小粒子）の測定体験では、地域による大気成分の違いを知ることができました。測定活動10年目の平成21年には「県環境保全調査活動功労者賞～大気・水・土壌部門」を受賞しました。他には生物指標の同定を発展させた「気候変動を見守ろう」で不特定多数に呼びかけをし、観察なども行っています。

科学技術の進歩も弾みになります。平成10年「環境モニタリング検討委員会」の頃より、ダイレクトに分析値を表示するデジタル方式の測定器が出まわりました。子どもたちには、数値ではなく、発色の濃淡で濃度を比較したり、グラフィカルな表現を駆使した機器類が出揃い、相手をする私たちも一緒に楽しめます。

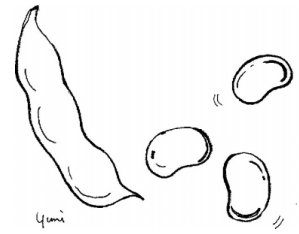
### 広くより大勢で手をつなごう

まず当会大気環境部会のホームページをご覧ください。地図データ入力ソフト「MANDARA」の使用を始めてから8年間のマップデータが見られます。沈静化してきた大気汚染物質の濃度変化は喜べますが、今後どうなるかは未知数ですし、測定できていない空白地帯、産業活性化地域の気況の変化も気になります。部会員の力だけでは不都合などで測定できない時もあります。部会員不在の重要地点には長年、測定協力いただいている会員の他、鎌倉、厚木の市民団体、座間教育研の測定値も一部入れさせていただいています。ご興味をお持ちの方、遠慮なくご一報ください。



2011年6月2～3日に測定したNO<sub>2</sub>濃度をMANDARAソフトにより地図化したもの

## 部会活動



### ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

活動予定(5月~8月)

- ・8月2日 夏休み子ども環境教室「ケナフ知ってる?ハガキを作ろう」  
県環境科学センターに新しい備品が入ったので、これを使った講座を準備します。

定例部会開催予定(原則、毎月1回実施予定)

- ・毎月一回の定例会開催予定(第3土曜日実施予定)

活動報告(1月~3月)

- ・財団法人神奈川県教育福祉振興会より補助金を当会に頂いたため、耕耘機(6万円相当)を購入し、ケナフ部会管理とさせていただきます。

- ・2月25日 次年度部会方針、耕耘機の試運転。
- ・3月24日 ケナフ圃場の畑起こし。顕微鏡を使った講座準備。



購入した耕耘機で畑起こしをしました

### エネルギー部会

部会長 桑原 清

活動予定(5月~7月)

定例部会(県民サポートセンター16~18時)

- 5月11日 710会議室、6月8日 710会議室、7月13日 710会議室。すべて水曜日です。

活動報告(2月~4月)

定例部会(県民サポートセンター16~18時)

- ・2月8日 研究テーマ「部屋の断熱」の検討。勉強会：居間の暖房と温度分布の報告、うちエコ診断、「放射線内部被曝から子どもを守るために」紹

介、環境省「こども環境白書」の紹介他。

- ・3月14日 23年度部会収支報告、24年度活動計画の検討。勉強会：節電チャレンジ、居間の暖房と温度分布、自宅の放射線測定、川崎ゼロエミッション工業団地・浮島メガソーラー見学、他。
- ・4月11日 23年度部会活動報告。24年度部会活動計画の検討。勉強会：我家のエネルギー消費、電気ガス料金の推移、逗子・葉山・鎌倉市のCO<sub>2</sub>排出、コンビニの電力消費。

### 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

活動予定

- ・5月26日(土)13時30分~16時30分 NPOセンター大船  
定例部会とNO<sub>2</sub>測定準備(ろ紙充填)、24年度計画の確認と具体策の検討。夏休み子ども環境体験教室について。
- ・6月7日(木)夕方~8日(金)夕方の24時間NO<sub>2</sub>測定
- ・6月15日(金)13~16時 NO<sub>2</sub>分析。KERC実習室。予備日として6月17日(日)13時~。

活動報告

- ・2月18日 部会開催 NPOセンター大船  
12月度NO<sub>2</sub>測定の評価、第18回市民環境活動報告会発表内容検討。

- ・3月3日 第18回市民環境活動報告会(かながわ県民センターホール)口頭発表とテーブルセッション(横須賀水と環境の会の測定グループとの意見交換)に参加協力。
- ・3月17日 部会開催 NPOセンター大船  
市民環境活動報告会の簡単な報告、H24年度に向けた活動計画の検討。  
平成16年度からの測定マップデータ等を更新しました。部会ホームページ  
URL：<http://npo-k-leader.net/taiki/>  
をご覧ください。

## 水環境部会

部会長 古谷 敏夫

### 活動予定

- ・5月20日、6月17日、7月15日、すべて日曜日の活動となります。集合場所は「JR 松田駅」山側、午前9時集合です。
- 今年よりエビ、カニを中心とした「川の連続性について」新たなマップ作成に入ります。貴重な環境「水生生物資源」の資料作成となりますので、多くの人の参加を期待しています。

### 活動報告

- ・3月10日 県環境科学センターにて本多氏を講師

として薬品を中心とした水質分析の学習を開催。11名参加。終了後、部会を開催。新部会長に古谷敏夫氏が就任、新年度の活動が示された。

- ・4月15日 H24年度最初の調査。JR松田駅集合で開催。酒匂川本流左岸、金時橋下流500m地点。前日の雨で増水していた。気温18、水温13.5。採集したものは、ハヤ、タモロコ、シマドジョウ、テナガエビ、ヌマエビ、カゲロウ、カワゲラ、チラカゲロウ、ヘビトンボ、他。

## グリーン部会

部会長 柳川 三郎

### 活動予定

- ・5月17日(木)市町村環境学習担当者研修の講師
- ・7月21日(土)平塚市環境フェア2012へ出前教室の実施
- ・各事業実施前に会議の実施

### 活動報告

- ・1月13日 平塚市立みずほ小学校へ「エコな買い物の仕方を学ぼう」を出前授業。

- ・2月26日 相模原市立環境情報センターにて「川と海を行き来する行き物」を講義。
- ・2月29日 平塚市立山下小学校へ「水の大切さ」を出前授業。
- ・3月2日 県環境科学センターにて「市町村環境学習担当者研修の講師」実施のために打合せを3回実施。
- ・各事業実施前に定例会議を実施いたしました。

## 自然環境部会

部会長 吉田 榮一

### 活動予定

7月下旬 こども植物園(横浜市南区)の自然観察会開催。自然環境部会員以外の方の参加歓迎です。

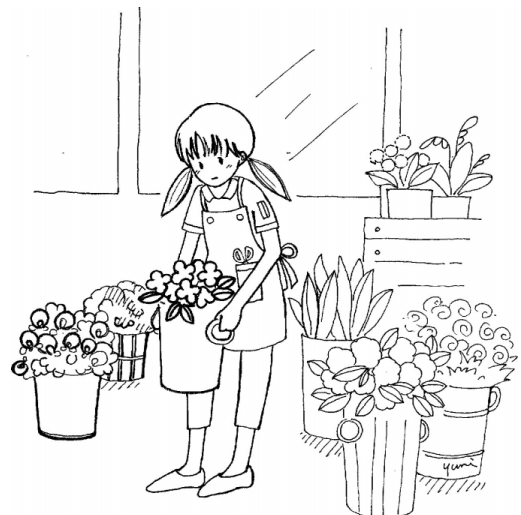
### 活動報告

- ・4月8日 自然観察会(『さざなみ』と共催) 真名瀬海岸で磯の観察会実施。総勢14名参加。

- ・3月3日 第18回市民活動報告会で部会員の松原洋一氏が「三陸ボランティアダイバーズの活動」について報告しました。この報告とその後のテーブルセッションに参加された会員の方から、早速このボランティア活動に対する支援金の振込と応援メッセージの投稿がありました。大変ありがとうございました。



磯の観察会(標本採取)



# 事務局だより

事務局 桑原 清

参加協力お願いします!

## 理事会開催予定

かながわ県民センター会議室、14～16時  
5月10日(木)710会議室、6月14日(木)709  
会議室、7月12日(木)709会議室

## 事業実施予定

5月15日(火)～6月19日(火)環境ボラン  
ティア養成講座(詳細は2面に掲載)  
5月17日(木)10～12時 市町村環境学習担当  
者研修 県環境科学センター  
5月27日(日)平成24年度総会(詳細は2面に  
掲載)

## 理事会報告

かながわ県民センター会議室、14～16時  
2月9日 コミカレ、市民環境活動報告会、助成  
金、子ども環境体験教室等について協議。  
3月8日 市民環境活動報告会、助成金、子ども  
環境体験教室等について協議。  
県環境科学センター会議室、13時～15時30分  
4月12日 コミカレ、助成金、子ども環境体験教  
室、平成24年度総会議案書等について協議。  
終了した事業  
1月26日 神奈川県新エネ・省エネ学校派遣事業  
2日目 相模原市内の小学校。  
3月3日 第18回市民環境活動報告会 かながわ  
県民センターホール(詳細は1面に掲載)。

(一部環境省いきものみっけ連携)

## 気候変動を見守ろう

身近な生物を指標に初確認日をご報告願います。  
キーワードは「いつ、どこで、初見、初聞き」  
春～夏の対象;カントウタンポポ、シロバナタンポ  
ポ、ヤマフジ、モンシロチョウ、スジグロシロチ  
ョウ、ベニシジミ、アオスジアゲハ、ツマグロヒ  
ョウモン、ナガサキアゲハ、アサギマダラ、アカ  
ボシゴマダラ、ハルゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼ  
ミ、アブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ、ニ  
ホンアカガエル、ヤマアカガエル、ニホンカナヘ  
ビ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、カブト  
ムシ、イワツバメ、ツバメ(子育ても)、コシアカ  
ツバメ、ホトトギス、カッコウ

遠出をする必要はありません。自宅周辺、外出の際  
などに、ほんのちょっと注意をはらうと、毎年の気  
候変化が手に取るよう。1種でも結構です。見つけ  
たもの、聞いたものと簡単な地名をご報告願います。  
県版データ化しています。一度確認した場所を毎年  
追ってみるのもいいですね。

送り先: 大気環境部会 猪股 Tel/Fax 0467-32-6858  
Eメール: km\_inmt @ ybb.ne.jp

(環境省主催いきものみっけシートの当会への重複送  
付も大歓迎! 環境省いきものみっけのホームページ  
は、<http://www.mikke.go.jp/> をご覧ください。)

## 備品リストのお知らせ

会計 田口繁雄

当法人が持っております備品(平成24年4月1  
日現在)をお知らせいたします。会員の方々のご利  
用に関しては、事務局でご相談をお受けいたします。  
・事務局連絡先 E-mail: npo.k.leader@gmail.com

| 備品No | 備品名                    | 保管場所              | 管理者 |
|------|------------------------|-------------------|-----|
| 00   | 人力発電自転車                | 相模原市立環境<br>情報センター | 荒谷  |
| A-01 | ノートPC                  | 事務局               | 桑原  |
| A-02 | 携帯型プロジェクタ              | 事務局               | 桑原  |
| A-03 | ホンダ耕耘機                 | ケナフ部会             | 荒谷  |
| A-04 | 二酸化窒素測定器               | 大気環境部会            | 猪股  |
| A-05 | 室内CO <sub>2</sub> モニター | 大気環境部会            | 猪股  |
| A-06 | 紫外線強度計                 | 大気環境部会            | 猪股  |
| A-07 | 手回し発電機6台               | エネルギー部会           | 桑原  |

特定非営利活動法人

神奈川県環境学習リーダー会 会報 第78号

発行日: 2012年4月23日

発行者: 代表理事 齋藤昭一

編集人: 田口繁雄広報部長代行、長村吉洋広報部

〒231-0013 横浜市中区住吉町2-26

洋服会館3階 よこはま市民共同オフィス内

FAX: 050-3488-4943

E-MAIL: npo.k.leader@gmail.com

ホームページ: <http://npo-k-leader.net/>

寄付、会費等納入口座: ゆうちょ銀行

00230-4-30769 神奈川県環境学習リーダー会

不許複製 © 神奈川県環境学習リーダー会

2012 Printed in Japan